

# 長畝ふるさと通信

【2017年7月号】

## ■ 50年に一度の大雨・・・

7月23日の集中豪雨で「佐渡50年に一度の大雨」「避難勧告」などと全国放送で大々的に放映されましたが、長畝地区では一時的に下流の河川が満水状態となり、農道や田んぼが水没しました(写真真ん中が農道で左側が水没した田んぼ)が、ほ



ぼ半日で水は引き、元通りとなりました。稲の生育にも影響はありません。全国各地からご心配のご連絡をいただき、いささか恐縮した次第です。確かに、佐渡の一部の地域では土砂災害や河川の氾濫がありましたが、ほんの一部です。テレビ報道では「佐渡」と出たのであたかも全島的に被



災したかのようにでしたが、実態はこんな感じでした。都会であれだけの雨が降れば水の逃げ場がなく大変な状況になるのですが、佐渡では圧倒的な面積を占める田んぼがダム役割を果たし、大水を受け止めてくれるという訳です。そんなわけで大変ご心配をおかけしましたが、田んぼのおかげで無事でした。

- 普段ならこの程度の水位ですが、当日は満水状態で濁流が流れていました。

## ■ 後期の栄養補給に「穂肥」散布

中干によって太くなった茎に大きく充実したモミをつけるために、7月中旬から後半にかけて「穂肥」を散布します。散布の目安は茎の根元に出てくる「幼穂(ヨウスイ)」というお米の赤ちゃんを見て、その長さが0.5センチあれば出穂(稲穂が出揃う)期20日前のサイン。さらに葉色や草丈を測定し、穂肥肥料の散布量を決めます。連日30度を超える酷暑の中、背中に動力散布機を背負って、畦道を歩きながら、まんべんなく肥料を散布していきます。「暑い、重い、ちょっと臭い」の三重苦に耐えながら、ひたすら田んぼを回ります。また、穂肥は基本2回に分けて生育状態を見て



散布します。2回目は幼穂長が5センチ、出穂期12日前頃が適期です。今では田植え時に散布する「元肥」と「穂肥」が一度に散布できる「一発剤」という便利な資材があるので、全耕地に穂肥を散布するわけではありませんが、はっきり言って体力勝負です！

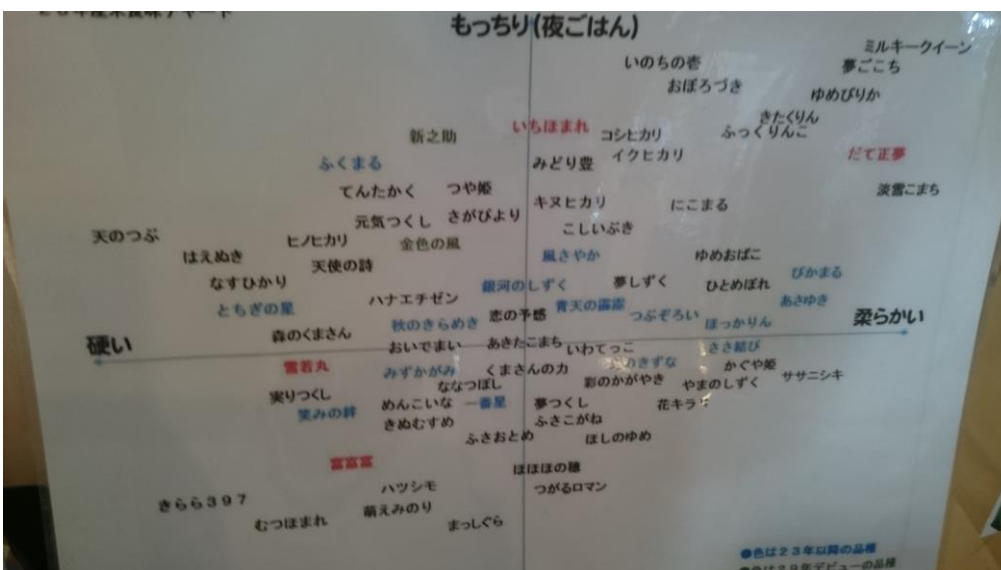
## ■ 佐渡初の「田んぼアート」 トキ羽ばたく! の図



トキ認証米「10作目」を記念して「朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会」が中心となって田んぼアートを作成しました。緑はコシヒカリの苗、白や黒や赤は古代米などの葉色の違う品種を植えて図柄を構成しています。他県の田んぼアート先進地では大掛かりなものが見事に描かれていますが、佐渡版はいかにも手作りといった感じでしょうか。色がはっきりとした7月上旬に比べて、26日に撮影したものは緑が支配しています（中央に見える人影は撮影者のボク）。10月14日には稲刈りツアーも計画されているとのことなので、興味のある方は参加してみたいはいかがでしょうか。

## ■ 大阪にて…

7月6～8日、大阪のお得意様回りをしに行きました。



そこで見つけたのがこの図です。縦軸には「もっちり」か「あっさり」、横軸には「硬い」「柔らかい」が北海道から九州まで全国約70品種のブランド米がマッピングしてありました。現在300品種もあるといわれるブランド米ですが、改めて図にするとその多様性に驚かされます。日本人の主食と言いながらもそれぞれの特徴があり、食べる人たちの好みがあるということが分かります。

新潟のローカルテレビ局で「業務用米」の特集を見ました。コメの需要が落ち込む中、「外食」産業でのコメの需要は伸びているとのこと。当然価格は安いのですが、「売れるコメづくりが求められています」と言われると、生産者としては複雑な心境です。つまり、「いくら苦労して高いコメを作っても、売れなければ意味がない。消費者(業者)が求めている、もっと価格帯の低いコメを作ったらどうですか」的な内容にどうしても腑に落ちないのです。作り手の気持ちとそれを受け止める消費者の気持ちが結びつかなければ良いものは出来ないし、そのことを無視してしまえば単に「いくらなら売れるか」が作り手の尺度になってしまいます。考えても、考えても答えは出てきません・・・悩ましい限りです。



お米屋さんに貼ってあった新潟コシヒカリのポスター

## ■ 夏本番に向けて 29年産米もごうぞ、ごひいきに



25日、早生種の「五百万石」が出穂し、稲穂に白い小さな花をつけました。月末には「こしいぶき」、来月10日頃には「コシヒカリ」がそれぞれ出穂します。昨年続き「酷暑」ということですが、それに負けない強い稲を育ててきたつもりです。会員の皆様には29年産米も引き続き年間予約をお願いします。運賃の値上げでやむを得ず値上げ

せざるを得ない状況となりましたが、事情をご理解いただきます様お願い致します。

## ■ 3度目の正直なるか 世界文化遺産

佐渡市は金銀山遺産群を「世界文化遺産」登録目指し、3度目のチャレンジをしています。ライバルは宗像沖ノ島(福岡)、縄文遺跡(北海道)、古墳群(大阪)の4候補。7月末にはユネスコへ推薦される国内候補「1枠」が決定されます。佐渡はこれまでに「世界農業遺産」や「ジオパーク」に認定されており、今回の世界文化遺産にも認定されれば、まさに「世界の宝島」と呼ばれることとなるでしょう(諸手を挙げて喜んではいけない問題も山積ですが・・・)。通信が届くころには結果が出ています。ドキドキ・・・

